



第1号

令和8年 4月 9日
長崎市立小島小学校
校 長 桐山 充晴

【学校教育目標】 夢をもち、ふるさとを愛し、自ら未来を切り拓く児童の育成

(令和8年4月9日現在)

ホームページ上では、省略しています（tetory 配信の分で御確認ください。）。

多くを語らずとも、一番大切です。



かがやくえがお

本校は、今年度も「かがやくえがお」を教育目標に掲げ、そこに直結する教育活動の展開を図っていきます。そのことをさらに深掘りすると、『教えられて「できる」笑顔から、自ら「学びとる」かがやくえがおへ』ということだと考えています。

これまで多くの場合、大人が決めた正解を教え、それが「できる」ようになった子供たちの安堵の笑顔を見ることが多かったのではないのでしょうか。しかし、私たちが本当に引き出したいのは、試行錯誤の末に自分なりの答えを見つけた瞬間や、仲間と響き合った瞬間にこぼれる、内側から溢れ出すような「かがやくえがお」です。

これは、学習指導要領が掲げる「主体的・対話的で深い学び」や、中教審（※）が示す「個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実」を、子供たちの表情という視点から捉え直したものです。

※：中教審とは文部科学大臣の諮問機関で中央教育審議会のこと

【「正解」を教えるより「納得」を分かち合う】

変化の激しい現代社会を生き抜く子供たちを育てるために、私たちは今、価値観を大きく転換しなくてはならないのかもしれないかもしれません。それは、大人が「こうあるべき」という既成の正解を提示するのではなく、子供たちが「正解のない問い」に挑むプロセスを大切にすることを意味します。

そこでキーワードとなるのが、子供たちに「委ねる」ことです。「委ねる」とは、放任することではありません。子供たちの可能性を徹底的に「信じる」ことです。たとえ失敗したとしても、「次はどうすればもっと楽しくなるかな？」と未来を向いて語り合える「納得解」を積み重ねていく。その過程で生まれる主体的な姿勢こそが、子供たちを真に輝かせると考えています。

【指導（ティーチング）から支援（コーチング）へ】

もちろん、全てを子供任せにするわけではありません。基礎・基本として教え導くべき場面では、プロの教師としてしっかりと「ティーチング」を行います。その土台の上に、子供たちが自走する場面では「ファシリテーター（伴走者）」や「コーチ」へと役割を切り替え、活動を仕組んでいきます。

○教える場面： 知識の種を蒔き、道具の使い方を伝える

○委ねる場面： 試行錯誤を温かく見守り、対話を促す

この二つの場面を使い分けることで、学校を「やらされる場」から「自ら育つ場」へと変えていきたいと願っています。

【共に創る「かがやくえがお」の学校】

子供たちが自らの足で立ち、自らの手で未来を切り拓こうとするとき、その表情には何物にも代えがたい輝きが宿ります。保護者の皆様、地域の皆様におかれましても、子供たちの「自ら育とうとする力」を共に信じ、見守っていただければ幸いです。

子供たちの「かがやくえがお」が溢れる学校づくりに、教職員一同、全力で取り組んでまいります。御支援・御協力をよろしくお願いいたします。

【学校からの連絡（通信等）について】

本校では、保護者連絡ツール『tetoru（テトル）』の活用を皆様の御協力のもと、連絡文書配信や、欠席連絡（連絡可能時刻を午前8時15分までとしていますので、それ以降の御連絡は、電話にてお願いいたします。）等での活用を行っています。



そこで、今後も学校からのお知らせ（学級通信等も含む）や、PTA（父母と教師の会）からの連絡文書も「tetoru」での配信とさせていただきます。ただし、文書の内容によっては、tetoru での配信を行いつつ、紙での配付も行う場合があります（期日を過ぎてから御確認するケースもあり御心配をおかけしたところもあったため）。

ただ、これまでの「tetoru」の閲覧状況を見ると、配信した情報を御覧になられていないこともあるようです。今後は、緊急のお知らせ等も有りますので、必ず内容の御確認をお願いします。